

研究課題 (テーマ)		父親自助グループとともに行う父親学級プログラムの開発	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	富山県立大学看護学部	助教	岡田麻代
分担者	富山県立大学看護学部	助教	北島友香
		助教	三加るり子
		助教	西村香織
		教授	松井弘美
研究結果の概要			
<p>今日、核家族化が進み、夫婦共働きとなり、子育てしやすい社会の実現に向け様々な法改正が行われている。父親役割における育児の割合が増え、父親に求められる役割は急激に変化している。父親は育児のための準備教育を受けないまま、育児の当事者となっている。</p> <p>本研究では、父親になるために父親が求めるニーズは何かを明らかにし、父親自助グループとともに行う父親学級プログラムの開発を目的とする。</p> <p>現在、乳幼児の育児を行っている父親にインタビューを行った結果、【妊娠に伴う妻の理解と対応】、【分娩に伴う夫の心理と対応】、【育児に伴う困惑と対応】の3つの時期におけるコアカテゴリーを抽出した。</p> <p>妊娠期のカテゴリーは理解と対応に分けられ、理解は「妻の変動する気持ちに戸惑う」など2カテゴリー、その対応として「妻の変動する気持ちに対応する」など3カテゴリーが抽出された。</p> <p>分娩期のカテゴリーは心理と対応に分けられ、心理は「妻が求める夫の役割に戸惑う」などの3カテゴリー、その対応として「分娩中の夫の役割を模索する」など3カテゴリーが抽出された。</p> <p>育児期のカテゴリーは心理と対応に分けられ、心理は「妻が求める育児とのずれを実感する」などの4カテゴリー、その対応として「妻の気持ちに添う努力をする」など2カテゴリーが抽出された。</p> <p>本研究の結果は今後、国内学会、学術誌において報告予定である。</p> <p>本調査において、ご協力いただきました方々に深く感謝申し上げます。</p>			
今後の展開			
<p>本研究において妊娠期、分娩期、育児期における父親たちの心理と対処が明らかになった。今後この結果より父親のニーズを抽出し、協力が得られる父親とともに父親グループを立ち上げ、父親学級プログラムの作成・実施を行う予定である。</p>			